

【留学体験記】 船橋王博

所属 大阪大学医学部公衆衛生医学

派遣期間 2019年8月～

派遣先での所属 北京大学医学部公共衛生学学院

1. キャンパスアジアプログラムに参加した動機

僕が最初にキャンパスアジアプログラムを知ったのは大学院面接中に磯教授とお話をさせて頂いた時でした。僕は中国の大学で留学していた経験もあり、語学力を活かして尚且つ大阪大学以外のアジアトップクラスの大学で勉強出来るキャンパスアジアプログラムはまさに自分にとってはうってつけだと思い参加を決定させて頂きました。

2. 派遣先での学習



留学先である北京大学での勉強は二年間を予定しており、僕の場合は少し状況が特殊な為、まず一年目は修士課程から始める事になりました。勉強する内容は日本とはさほど違いはなく、まずは単位に必要な授業を選択し、授業で与えられた課題や小テストなどをクリアしていくことを現在進めております。もちろんキャンパスアジアプログラムのダブルディグリープログラムに参加しているのであれば、北京大学で博士号を取得するためには論文も必要になりますし、必要な期間が圧縮されているため、日程的には少々多忙な面もありますが、現地でお世話になっている公衆衛生学科の先生や生徒の皆さんと勉強のみならず、今後の予定や現地での生活なども含めて協議をしながら課題を進めている状態です。

3. 派遣先での生活において、よかったことや大変だったこと

生活面では、日本のニュースでも取り上げられるほど中国のネット通販環境は整っており、日用雑貨から食べ物やマニアックなグッズまで揃えられる便利様なので、その点で特に困ったことはありませんでした。食事なども首都のことだけあって、中国各地の郷土料理が集まっており、日によって違った味の中華料理を堪能出来ます。あとファーストフードなど

も充実しているのです、食事で飽きることは特になかったです。

大変だった事といえば、まず北京の広さが東京都の 7.5 倍もあり、最初は土地勘をつかむまでに相当な時間がかかりました。しかし、歴史的建造物や世界遺産も多数点在しているため、週末は観光気分で様々な場所に行くことが出来て、旅行好きな方なら滞在時間を有意義に過ごせると思います。次に居住環境ですが、まず気候が日本と違って乾燥しているため、僕にとって加湿器は必需品でした。学生寮はそこそこ環境が整っているものの、中国の方は固いベッドを好むため、ベッドは結構固いです。それに慣れるまでは結構苦労しましたが、その点、学校の近くにすごく腕のいい整体医さんがいて大変助かっています。

勉強などは中国語メインですが、分からない事などがあれば先生方も親身になって解説してくれますので、その点は助かっています。

あと、正月休みの時期が日本と中国とで異なってきますので（中国は旧正月）、年末は少しホームシックになります。



4. その他参加を検討している学生に伝えたいことなど

中国ではグーグル関連のウェブが開けないので、現地で VPN に申し込む事が必要になります。あと、LINE も使えない代わりに、現地の WeChat というアプリがあります。中国で生活をするのなら、このアプリが必要不可欠です。基本学校の連絡事項から日常の買い物や交通移動手段を利用する場合にすべて使えます。

多少の変化を除けば、新しい事もたくさん学べる機会だと思います。そしてやはり今のコ

ロナ情勢などからも伺えるように、これからの公衆衛生学は単に国内だけの問題に留まらず、今まで以上にも増して世界との繋がりが欠かせないものになってくると思います。なのでこれを機に視野を広げたい方や、他の世界トップクラスの大学に行ってみたい方、そして他に興味のある方はぜひこのチャンスにプログラムに参加することをおすすめします。

